

# みやまの特産品

地域資源を生かし、昔ながらの製法を守り、職人による伝統の技と丁寧な手仕事から生み出される希少な逸品は、後世に残していきたい財産です。



天然樟脳  
しょうろう



はぜ蠟  
ろう



## 線香花火

手持ち花火の国産のシェアは1%足らずという中、高田町は日本でも数少ない国産花火の生産地です。筒井時正玩具花火製造所では昔ながらの伝統の技が引き継がれ、線香花火の原型という「スポ手牡丹」を唯一製造するほか、カラフルな和紙で纏られた「長手牡丹」や、九州の素材にこだわり、草木染めの手漉き和紙で作られ桐箱に納められた、美しい線香花火もあります。

この線香花火の製作技術は、令和8（2026）年3月に県の無形民俗文化財（民俗技術）に指定されました。



内野樟脳  
五代目 内野和代さん

日本に残る最古の樟脳工場。国内で唯一稼働している明治時代の設備は、産業考古学会の「推薦産業遺産」にも認定されています。

クスノキから作られる天然樟脳は、古くより防虫剤として用いられてきました。森林の爽やかな香りで、アロマとしても愛用されています。瀬高町の内野樟脳では、九州産クスノキのみを使用し、十数もの工程を重ね、丁寧に結晶化させています。約6トンのクスノキから採れるのはわずか25キロ程という、質の高い天然樟脳。それは100年の伝統の結晶でもあります。



荒木製蠟合資会社  
七代目 荒木眞治さん

江戸時代から続く、木蠟の製造所。国内で木蠟を作っている3社の内の1社で、九州では唯一。木蠟の伝統的な製造工程の見学が可能。

みやま市は全国でも希少な木蠟の産地。高田町の荒木製蠟では、天然のハゼの実を原料に木蠟、白蠟、和ろうそくを伝統的な製法で作っています。和ろうそくはパラフィンなどの石油製と比べ、天然素材のためエコであり、すぐに出にくいので国宝級の神社や寺院でも使われています。そのほか、木蠟は化粧品や医薬品、文具などにも利用され、海外でも珍重されています。



## 高菜漬



みやま市瀬高町は日本有数の高菜の産地であり、その加工品である高菜漬の生産も盛んです。肉厚でシャキシャキとした歯ごたえと、ほどよい辛みや香り高い風味が特徴。食生活の多様化に伴い、多彩なバリエーションが揃っています。



## のり



「福岡有明のり」をブランド名とする有明海産ののりは、日本屈指の生産量を誇ります。干満差を活かした養殖方法で育てたのりは柔らかく、とろけるような甘さがあり、磯の香りと旨みが口の中に広がります。



## きじ車

清水寺を開いた最澄（伝教大師）をこの地へと案内したのが一羽のキジだったという伝説にちなみ、古くからこの道案内、開運、縁結び、家庭円満のお守りとして親しまれてきた郷土玩具。乾燥させた松の木を削り出し、釘をはずしに仕上げ、雄は緑と赤、雌は赤と黒で絵付けが施されます。

九州地方のきじ馬・きじ車製作技術は、令和7（2025）年3月に国の「記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財」に選択されました。



筒井時正玩具花火製造所  
三代目 筒井良太さん



昭和4（1929）年創業。途絶えかけた国産線香花火の伝統を継承し、新たな商品開発にも尽力。線香花火作りが体験できるギャラリーも誕生。